

校長室だより No 13

柏の自然で林間学校・・・

2021年 10月31日 柏市立土小学校 校長 梅津 健志

5年生の林間学校を10月19日、20日の日帰り二日間の日程で行いました。柏市の学校は平成12年までは長野県菅平に柏市が所有していた柏荘を利用した林間学校を行っていました。保護者の方の中にはそれを経験された方も多と思います。その後は、国立的那須や赤城や高遠などの施設を利用して行ってきました。ここ数年、働き方改革の名の元に市内にある県立手賀の丘少年自然の家を利用する学校が増えてきました。私は近いから楽に林間学校を行うという考えではなく、40万人都市柏に隣接する手賀の自然を十分に満喫し、自然の大切さや凄さを感じ、柏の良さを味わい柏市に愛着をもち、良き柏市民に成長して欲しいと願い、5年生の担任と共に林間学校の内容を考えてきました。その中で大切にしてきたものは、共通体験と選択体験です。

林間学校1日目は、ウォークラリー。手賀の丘周辺の約4キロのコースを地図を持たずに、コマ図だけを頼りに歩きます。グループで相談をしながら、コマ図と実際の様子を見比べ、右か左かと判断しながら進みます。下見の時に担任が行い、大人でも迷う、だからおもしろい！と採用になりました。みんなで同じゴールを目指して力を合わせてゆく。途中のポイントに先生を見つけると、本当に安堵した表情を見せ、また次のポイントに向かっていました。

2日目はコース別自然体験。スローガンのひとつ「感じよう 手賀の魅力」を共通のテーマとして、カヤック体験、フィッシング体験、農業体験（手賀青空レストラン）、歴史体験（千年村ミステリーツアー）の4コースを選択して行いました。学校からの引率教員は子どもの学びを観察し、実際の指導は、カヌークラブ、手賀漁協、農菜土（農業法人）、柏観光ボランティアの方々総勢14名のみなさんに指導していただいで実施をしました。子供たち一人一人が、自分で選択したコースに満足感を持って、その体験を通して手賀の魅力、柏市の自然や文化の魅力を感じています。今、デジタル委員会（放送委員会）の企画で、林間学校の感想を投稿してもらい、それを放送で紹介する企画を聞いていると、そのことがよくわかります。

これからの教育のキーワードの一つは「個別最適化」です。そのためには二つのことが大切になります。一つは、学習活動を創る教師は、自分の経験や従前方法から脱却して、子供にとって魅力的で学習価値の高い活動を創ること。二つ目は、先生が教えられない、できないものは、その道の専門家やできる人に任せて指導していただくこと。教師以外の人が授業や活動に入ってくることが、子供たちへも良い影響をもたらします。今年の林間学校が正にその姿を具体化したもので、こういう形で、集団で取り組むことと個別最適な学びができる場を広げていきたいと思えます。

校長室だよりを通じてお気づきの点やよい改善案は、お聞かせください。 入力フォームは、右の URL です。

<https://forms.office.com/r/BiUUZUnxvy>